

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を利用した耕作放棄地の再生について		
概要について	取組主体名	農事組合法人 大茂内
	地区名	花岡町土目内地区
	解消面積	28a
	事業内容	耕作放棄地の再生及び実証ほの設置
	取組年次	再生事業:平成21年度 実証ほ:平成22年度
	導入作物	大豆
取組の契機	<p>耕作放棄地の影響で、隣接するほ場に対し、日照や病害虫による弊害を起しており、その解決策が課題となっていた。</p> <p>一方で、耕作放棄地の隣接しているほ場で農業を行っている取組主体の農事組合法人大茂内については、規模拡大及びほ場の集約化も目指しており、市協議会としても農地の再生利用事業の普及活動を図るため、モデル地区を設置する計画があり、双方の意向が一致したことから当該事業に取り組むこととなった。</p>	
発生の要因	農業従事者の高齢化、により条件不利地の農地の荒廃が進んだ。	
取組内容	<p>雑木が生い茂った耕作放棄地を再生し、湿害対策の新技术を導入した大豆の栽培実証ほ場を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度 ～ 耕作放棄地再生事業 ・平成22年度 ～ 同時畦立て播種栽培の技術実証 	
取組の成果	<p>再生された農地は元々排水性が優れていないことから、高畝をつくることにより、排水性が優れていない農地でも十分に生育することが可能となることから、耕うん同時畦立て播種技術を採用し、収量の確保を図った結果494kgの収穫量となった。湿害の多いこの地区では、平均反収150Kg確保できればよいが、それ以上の単収を確保できたとのことで、今後同様の農地でも高畝を実施することで、平均並みの収量が確保されること考える。</p>	
再生後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度 大豆の生産 ・平成24年度 大豆の生産 ・平成25年度 大豆の生産 ・平成26年度 大豆の生産 	

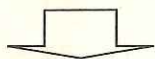
再生利用状況写真



再生作業



大豆の播種後



大豆の収穫作業